

校長室から 「学び続けるということ」

先日、集会で表彰があったときに、生徒たちに佐藤一斎（さとういっさい）という人の書かれた「言志四録」（げんししらく）について紹介しました。佐藤一斎は、江戸時代の儒学者で、西郷隆盛はこの「言志四録」に強く感銘を受けた人物の一人とされています。

集会では、このなかから

少（わか）くして学べば、則ち壮にして為す有り
壮にして学べば、老いて衰えず
老いて学べば、死して朽ちず

という一節を紹介しました。この言葉からは、人間がいかにか、生涯学び続けなければならない存在であるかを感じ取ることができます。

今日、中間テストが終わりました。採点されたテストがやがて個人個人に返却されていくと思います。親も子も、どうしても点数だけにこだわりがちですが、それだけに一喜一憂せずに、間違っただのはなぜかということに気づかせてもらったことを大事にしてほしいと思います。

大事なことは、何事に於いてもあきらめずに、人との比較にばかりとらわれるのではなく、努力を続けることなのです。点数が良かろうと悪かろうと、勉強はこれからずっと一生涯にわたって続けていくものです。慌てず、自分のペースをしっかりとをもって、たゆまぬ努力を続けてください。それは、きっと大きな力となり、子どもたちの人間的な成長につながっていくと思います。

学校では、子どもたちが少しでも分かる喜びを味わってほしいと願い、今年は忙しい毎日の中をやりくりして、「わかっタイム」という補習の時間を設けています。この時間は「勉強が分かりたい」と思う人が申し込めばよいことになっています。これから、多くの生徒たちが、こうした時間も活用して、分かる喜び、学ぶ喜びを是非味わってほしいものだと思っています。

平成23年5月27日



家の庭に咲いていた花を摘んで、花瓶にさしました。花があるだけで、心が和みます。

